

南極通信

【全日制】第 1 号

R 6 年 12 月 11 日



いざ南極へ、出発！

R 6 年 12 月 5 日 (木)、成田空港から第 66 次南極地域観測隊がオーストラリアのフリマントルに向けて出発しました。フリマントルでは、先に日本を出発していた海上自衛隊の砕氷船「しらせ」が港で、観測隊の到着を待っていました。フリマントルに着いた当日からさっそく「しらせ」での船内生活がスタート！大人数での共同生活、様々な「しらせルール」…少しずつ慣れていきます。フリマントル港で3日間南極行きの準備をした後、現地の日本人の方々や観測隊ご家族に見送られながら、12月9日(月)10時南極へ向けて出航しました。しばらく陸とお別れです。これから大冒険が始まります。



行ってきます！

出航当日…「暴風圏に入るのは出航から2日後」のはずなのに、船は初日から激しく揺れました!! 風が強く、波は3mにもなりました。前後左右にゆっくり揺れて、踏ん張らないとまっすぐ立っていられないほどです。日本にいるときは船酔いを心配していましたが、今のところは何ともなく、ほっと一安心。これから暴風圏に突入したらどうなることやら…。

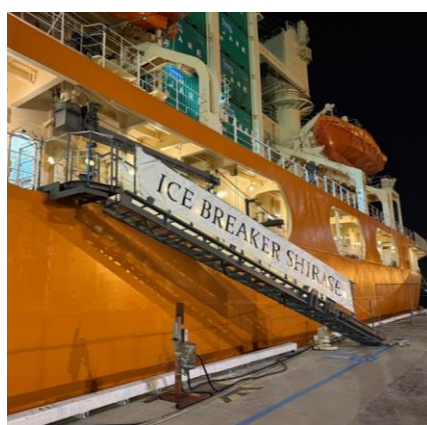
さて、これから昭和基地に向けて、約3週間の船旅が始まります。以降の南極通信は、しらせ船内の生活や、海洋観測の一部を紹介するので楽しみに！



4代目、砕氷船しらせ



フリマントル港にて。オレンジの船体が青空に映える！



“ICE BREAKER SHIRASE”



with 三国丘タオル

日本の南極観測船は、初代の「宗谷」、2代目の「ふじ」、3代目の旧「しらせ」について、4代目の新「しらせ」が日本と昭和基地を毎年往復しています。現在の「しらせ」は、船長 138m、船幅 28m、排水量 12,500 トンもある世界でも最大級の砕氷船です。

今年は観測隊 65 名、海上自衛隊約 180 名を乗せ、南極へ。これから南極大陸へ近づくと、だんだんと氷が見えてきます。「しらせ」は海氷や、沿岸域の厚い定着氷を割りながら、昭和基地に接岸します。

☆船から氷が視認できるのはまだ先…。氷を割って進む勇敢な「しらせ」の姿は、後日リポートするので楽しみに！